



みんなの水泳……日々徒然

メキシコシティ2017WPS世界選手権およびクラス分けの見直しや競技規則の改正について



▶はじめに

今回は、2017年7月に開催されたIDMベルリン大会について、お伝えしました。

今回は、2018年に向けたWPS (World Para Swimming) の動向や地震の影響で日程変更されて開催されたメキシコシティ2017WPS世界選手権についてお伝えしたいと思います。



▶メキシコシティ2017WPS世界選手権

2017年12月2日から7日まで、メキシコシティにおいて、メキシコシティ2017WPS世界選手権が開催されました。本来は、9月下旬～10月上旬開催の予定でしたが、地震の影響を受け、日程変更されて開催に至っています。

会場は1968年メキシコオリンピックの会場であったプールで、パラ水泳だけでなく、パワーリフティングの世界選手権も同時開催となりました。

パラ水泳とパワーリフティング合わせて89か国から約1200名の選手、スタッフ、役員が参加しました。本来、パラ水泳の世界選手権は、600名前後の参加があるのですが、今大会、パ

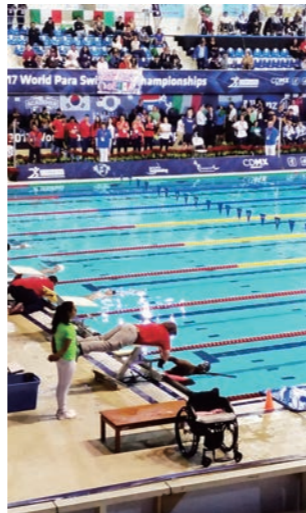
ラ水泳については、選手およそ300名(スタッフ含めて538名)が参加となりました。その影響で本来は競技日程が10日間なのですが、6日間に短縮されていました。日本をはじめ、カナダ、豪州、英国、オランダ、ウクライナ、ニュージーランドなどが不参加となり、数字の上でも、会場での雰囲気も少し寂しいものとなりました。高地での世界選手権に向けて調整していたチームを再度日程調整するのが困難など、様々な理由での不参加だと思われます。

地震でこの世界選手権の延期が決まった直後に、(日程変更後の)不参加を表明したオランダとカナダは、急遽、それぞれ自国でのWPS公認のオープン競技会の開催を企画し、各国にも参加を促していました。これらの大会でいくつかの世界記録が生まれています。

メキシコシティでの今大会では、参加選手数の影響か、記録は世界選手権としては決して高いものではありませんでした。会場の作りが古いこともあり、競技プール屋が寒く、選手には過酷な環境での競技会だったと思います。標高約2300mの高地にあることも影響していたかもしれません。とはいえ、昨年のリオパラリンピックから比べると、若い世代の台頭を感じさせる場面も多々ありました。



会場はメキシコオリンピックでも競技が行われたプール。約50年経過しても使用されている大会のレガシーです



厳しい環境でしたが、各国の若手選手たちはハツラツと泳いでいました



今回、一緒に仕事をしたクラス分けチームのメンバー

▶2018年ルール改正

今大会に併催される形で、フォーラムが開催され、各国からの代表が集う機会がありました。そこで、WPSから今後に向けての動きについて説明がありました。

2018年1月1日からWPS競技規則が改正されますが、その主な変更点について、解説がありました。パラ水泳の場合、選手の障がい像は多岐にわたります。障がいゆえにできないことを泳法およびその規則のなかでどうとらえていくのか、パラ水泳の難しさを改めて感じる部分です。

自由形や背泳ぎに比べ、平泳ぎやバタフライについては、どのように泳ぐことが規則上で許されるべきか、これまでも解釈の整理が必要だと意見が出されています。今後の動向に注目が必要です。



各国の代表が参加したフォーラム

▶2018年クラス分けの見直し

WPSは、2018年にクラス分けの見直しを実施すると、2017年9月に発表しました。2018年1月1日から、(現行のWPSクラス分け規則に)一部改正を加えた新版WPSクラス分け規則が有効となります。テクニカルアセスメント(いわゆるウォーターテスト)を変更したもので、この変更に伴い、肢体不自由(S1-S10)および知的障がい(S14)の選手については、2018年1月1日をもって、すべての選手がRステータスとなります。

Rステータス(Review Status)とは、国際クラス分けが実施される次の機会に必ずクラス分け受検しなければならない状態をいいます。

つまり(ざっくりとえば)、2018年にはほぼすべての選手を再度クラス分けする、ということだと言えます。2018年のWPSライセンス登録の際に、医学的診断書等を提出し、(国際クラス分け併催の)国際大会でクラス分けを受検することになります(一部、WPSが認めた場合には、再クラス分け受検不要なケースがあります)。

▶東京2020パラリンピックの水泳競技は…

現時点で決まっているのは、選手数620(男子340、女子280)と、種目数146です。2016リオパラリンピック大会では、選手数620、種目数152でしたので、選手数は同じでも、種目数、つまりメダル数は減ることになります。新旧競技の入れ替え

ど、パラリンピック大会全体の選手数や競技、その種目数など、全体の調整の結果、水泳や陸上競技の種目数が減っています。具体的な146種目の内容、および枠の配分方法などについては、これから発表されることとなります。

▶WPS公認 ITO / WPS公認クラシファイア研修

11月初旬、イタリアのリニャーノにて、WPS国際公認テクニカルオフィシャルのセレクションミーティングおよびWPS国際公認クラシファイア再更新研修が行われました。

テクニカルオフィシャル(泳法審判などの競技役員)研修は、毎日、講義や試験が繰り返され、東京までの期間の主要なITOを選考する機会となっていました。

クラシファイア研修は、国際公認資格の再更新のため、講義や実技、筆記試験などを通して、必要なスキルや知識を改めて確認し、現状の課題や問題点を共有するなど、貴重な機会となりました。



世界各国から参加者が集まり、講習や研修をみっちり受講しました

パラ水泳競技役員研修@千葉

東京2020に向けては、国内でのパラ水泳の競技規則のさらなる理解と普及、競技役員の養成が必要です。11月17日～19日に千葉において、日本身体障がい者水泳選手権時に、WPSから講師を招いて、パラ水泳の競技役員研修が実施されました。

FINAの競技規則と同じ点、障がいによってできないことについては例外事項を設けるWPSの特性などを中心に3日間、講義および実技が行われました。



2020に向けて、日本の競技役員知識、スキル、経験値のアップへの取り組みが進んでいます